

《専門教育科目》

科目名	教育の思想と原理	科目ナンバリング	T04L11082
担当者氏名	大関 達也	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。

《テキスト》

資料を配付する。

《授業外学習》

- ・授業前に配布資料を読み、学習の手引きに沿って自学自習する。
- ・授業後、紹介された文献や参考図書を読み、理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業中に課題作文に取り組み、知識の定着を図る。課題作文に対するコメントから自分の理解度を確認し、次の学習への動機づけを得る。

《参考図書》

小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える－保育者論から教育論へ－』あいり出版、2011年。その他、授業で適宜紹介する。

《備考》

- ・グループワークやディスカッションを行う。
- ・意欲的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な文脈を説明することができる。
	現代の教育課題に主体的に取り組むことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	0
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育をめぐる現代的課題	一般的な教育言説を確認しながら、教育を根本的に問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
2	学校をめぐる現代的課題	学校をめぐる問題が山積している点を確認しながら、学校の存在意義を問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
3	教育の語義	すでに経験している日常の教育を振り返りつつ、教育の語義を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
4	教育の目的・目標	教育基本法に定められた教育目的、教育目標を確認しながら、その具体的な内容を事例に即して検討する。	資料に基づく学習と作文	90
5	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的文脈	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的な意味を、古代ギリシア・ローマの時代にさかのぼって検討する。	資料に基づく学習と作文	90
6	学校の起源	文字によって体系化・集約化された知識を教授・学習する場として、学校が成立した点を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
7	大学の成立と庶民のための学校の誕生	12世紀のヨーロッパで大学が成立し、16世紀のルターが庶民のための学校を構想した歴史的経緯を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
8	人間の教育必要性の意味	社会から隔離されて育ち、教育の機会を奪われた野生児の事例から、人間の教育必要性の意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
9	子どもへの教育的まなざしの成立	ルソーの教育思想やアリエスの歴史研究から、子どもに注がれる教育的まなざしの意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
10	家庭教育の意味	家庭教育の歴史的・社会的な意味を確認しながら、現代における家族や家庭生活の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
11	近代公教育の理念と制度	学校が公の性質を持つようになった歴史的経緯を跡づけながら、啓蒙主義と学校教育制度の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
12	統一学校運動と新教育運動	19-20世紀転換期のヨーロッパで起こった統一学校運動と新教育運動の理念と実際を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
13	学校化社会の限界	学校教育を自明視する学校化社会、学歴を社会におけるステータスシンボルとみなす学歴社会の限界を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
14	生涯学習社会における学校の役割	教育は生涯にわたって継続するものであるという観点から、生涯学習社会における学校の役割を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
15	情報・消費社会における教育と学校	情報メディアによって人々の欲望が刺激され、消費が促される社会で、教育と学校には何ができるのかを展望する。	資料に基づく学習と作文	90

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	T04L11086
担当者氏名	三浦 智子	担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂
『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	教育行政の仕組みや学校制度、学校運営、地域連携について理解している。
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育法規の基本と、教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。
小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（まとめノート提出）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの	45
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの	45
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90

《専門教育科目》

科目名	発達心理学	科目ナンバリング	T04L21089
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

人間の生涯に渡る発達の過程を理解することを目的とする。受胎の瞬間から始まり死をもって終結する一個人の発達の流れを、複数の発達段階に区分し、それぞれの発達段階における身体的・社会的・心理的発達の特徴を理解する。発達障害に関する基礎を理解することも目的とする。

《授業外学習》

参考図書として取り上げた図書を読むことを通して、授業で取り上げたテーマについて理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布する資料とテキストを復習し、授業で扱った重要事項について理解を深めること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』
松田信樹（著） あいり出版 2018

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容の理解度を確認するための小テストで学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

『よくわかる発達心理学 [第2版]』 無藤隆・岡本裕子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2009

《備考》

質問等には、オフィスアワーに対応する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	発達心理学の基礎的事項を人間発達の具体例に即して説明することができる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	発達心理学の基礎的理解に基づき、教師としての教育的関わりについて論理的かつ実践的に考えることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	発達心理学への導入	心理学の学問上の特徴、そして発達心理学では何をどのような目的をもって学ぶのかを理解する。	授業資料とテキストの復習	60
2	発達の定義と発達観	発達の定義について理解した上で、現代の心理学が描く発達観を明確にする。	授業資料とテキストの復習	60
3	発達の規定要因	人間発達の規定因は何かという問いを立て、遺伝要因と環境要因の観点から答えを探究する。	授業資料とテキストの復習	60
4	胎児期から新生児期	胎児の発達について、母体内環境の重要性に焦点を当てて学ぶ。新生児が秘める能力についても学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
5	新生児期から乳児期	赤ちゃんに生得的に備わっている特徴と、出生後1年間の赤ちゃんの発達について学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
6	乳児期から幼児期①	乳幼児期の発達について、母子関係の形成と深化の観点から学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
7	乳児期から幼児期②	乳幼児期の発達について、言語発達と遊びの発達の観点から学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
8	幼児期	幼児期における自己の発達と情緒発達について学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
9	幼児期から児童期	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェ理論に依拠しつつ理解する。	授業資料とテキストの復習	60
10	児童期①	児童期の発達について、人間関係の発達に焦点を当てて学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
11	児童期②	児童期の発達について、学業に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
12	青年期	青年期の発達について、アイデンティティの形成を鍵概念として理解する。	授業資料とテキストの復習	60
13	成人期	成人期の発達について、親としての成長ならびに中年期危機に中心に学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
14	発達のつまずきと歪み	発達のつまずきと歪みについて理解し、発達障害をどのように捉えるべきかを考える。	授業資料とテキストの復習	60
15	発達障害	発達障害の基本的事柄を正しく理解し、発達障害を抱える子どもへの支援のあり方を考える。	授業資料とテキストの復習	60

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	T04L21096
担当者氏名	河野 稔, 勝見 健史			担当形態	複担
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ II 期

《授業の概要》

これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。

《テキスト》

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver. 2』北大路書房

《参考図書》

堀田龍也・佐藤和紀編著(2019)『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。
	学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。
	学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。
	ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。

《授業外学習》

予習では、事前にテキストの授業範囲を読み、指定された事前課題に取り組むこと。復習では、指定された事後課題に取り組むとともに、授業で取り上げたテキストの各章末の章末問題に取り組むこと。第5回の授業企画書の作成、第15回までの授業パッケージの作成は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループ（制作チーム）のメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくに授業パッケージの作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	20
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	これからの子どもたちに求められる資質・能力の育成	これからの社会を生きる子どもたちに育みたい力を考え、学習活動のアイデアを整理する。	テキストの第1章を通読	45
2	これからの教師に求められる授業力	教師に求められる資質・能力を確認し、省察的実践家としての教師を目指す上で大事な考え方や態度を整理する。	テキストの第2章を通読	45
3	授業づくりとそのプロセス	授業づくりの基本的な考え方を確認する。授業パッケージの制作チームをつくり、制作する授業テーマと学習目標を考える。	テキストの第3章を通読	90
4	評価のデザイン	目的・指導・評価の一体化の意義および評価方法を理解する。授業パッケージで想定するテーマについて評価方法を検討する。	テキストの第4章を通読	90
5	学習環境のデザイン、授業企画書の発表会	学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。	テキストの第5章を通読	90
6	授業を支える指導技術（教師編）	授業での教師の振る舞いや板書・資料提示について理解する。授業パッケージのチームでお互いの話し方の特徴を確認する。	テキストの第6章を通読	60
7	学びを引き出す指導技術（児童・生徒編）	学習者中心の授業のポイントを整理する。授業パッケージのチーム内でノートの取り方や学び方を紹介しあう。	テキストの第7章を通読	60
8	学習指導案をつくる（1）学習目標の設定	学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。	テキストの第8章を通読	60
9	学習指導案をつくる（2）深い学びを導く教材研究	教科書等の役割、および教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。	テキストの第9章を通読	90
10	学習指導案をつくる（3）主体的・対話的な学習過程	協同学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについての学習過程を作成する。	テキストの第10章を通読	90
11	学習指導案をつくる（4）学びが見える評価方法	ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。	テキストの第11章を通読	90
12	授業の魅力高めるICTの活用	ICT活用の意義や目的、活用場面を確認する。実際にICT機器を操作体験し、授業パッケージでの活用の可能性を検討する。	テキストの第12章を通読	60
13	情報活用能力の育成	情報活用能力を育成する学習活動を確認する。授業パッケージの中で学習者が意識すべき情報活用能力について検討する。	テキストの第13章を通読	90
14	これからの学習環境とテクノロジーの役割	テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。今後の学校のICT環境における教師の役割について自分の考えをまとめる。	テキストの第14章を通読	45
15	模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ	授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。	テキストの第15章を通読	90